

巻頭言

変化する社会生活と行動意識

関東プラスチック印刷協同組合
理事長 石井 純



今般の感染症対策および対応を契機に、私たちを取り巻く社会環境や日常生活行動は大きく変化しました。

そして、行動もさることながら意識付けやメンタル部分までも歪んだ状態になってしまったのではないのでしょうか。

コロナ禍を受けた我々の意識動向の変化には、様々な傾向があると考えられます。

1つ目は健康と暮らしの安全・安心への意識の高まりだと思います。安全・安心の確保は感染症への直接的な対応として「ウィズコロナ」の生活と仕事の前提であり、自身の身を守るという意味で健康に加え、体力の維持・向上といった広い意味での健康維持に対する必要性の意識が高まっているような気がします。

2つ目は多様な働き方に合わせた場所やワークスタイルの変化を感じます。安全・安心の確保と共に経済と雇用の確保のため、国や企業側はテレワークの推進に努めてきました。結果、デスクワークはオフィスとは別の場所で行うという風潮が生まれました。

3つ目はデジタル取引やデジタルコミュニケーションをフル活用した結果で急激にビジネスのオンライン化が進みました。

ある調査によりますと、生活の変化（悪化）したことのランキングは以下のよう
に記されておりました。

第1位「日常生活へのストレスの増加」、第2位「収入の減少」、第3位「体重の増加」、第4位「雇用・働き方の悪化」、第5位「食費、食生活の悪化」、第6位「同居者・家族との関係、コミュニケーション」

このようなアンケート結果を見ても、社会生活が大きく変化したことによるストレスが我々にも及んでいることが分かります。

さて当業界においても上記以外に問題や障害が山積しております。

上昇し続ける原材料（コストUP）、長期にわたる労働力不足（生産量の低下）、材料発注から納入までのタイムラグ問題（納期遅延）、値上げ転嫁率の低さ（低利益）など数えきれないほどの問題がございます。

このような状況下において問題を改善し安定的な経営、業界にしていけることは並大抵の努力では行えないと思います。このような時こそ業界が一致団結し組合活動の存在意義を発揮すべき場面ではないかと考えます。

人はつらい時どうしても俯き加減になってしまいます。たまには空を見上げて、大きく深呼吸し心を整えたいと感じる今日この頃でございます。

全国グラビア協同組合連合会 第52回通常総会

適正値上げ、各社存亡を賭した戦いを！ 専務理事、村田英雄氏から袖山高明氏へ

全国グラビア協同組合連合会は、2022年6月24日(金)午後1時より、東京・すみだ産業会館8階Dホールにて第52回通常総会を開催した。当日の出席者は、組合員数8単組理事20名中、本人出席が田口 薫会長（関東グラビア協組、大日本パッケージ(株)）、安永研二副理事長（同、東包印刷(株)）、竹下晋司副理事長（関西グラビア協組、(株)ダイコー）、石井 純副理事長（関東プラスチック印刷協組、(株)多連堂）、若狭博徳副理事長（北海道グラビア印刷協組、(株)北海サンコー）、大野寿之理事（同、極東高分子(株)）、山下雅稔理事（関東グラビア協組、(株)巧芸社）、吉原宗彦理事（同、東京加工紙(株)）、浮田信也理事（東海グラビア印刷協組、大和産業(株)）、袖山高明専務理事の10名、委任状出席理事が10名であった。

やせ我慢はやめよう



総会に先立ち、**田口 薫会長**は次のような挨拶を行った。

「各単組の皆様、本日はご多忙のところ、ご出席下さいましてありがとうございます。

昨年度は何と言っても、コロナ禍と原油高によって原材料や運送費、動力費の高騰を受け価格転嫁に大汗をかきました。組合は経営者を中心に、中小企業庁、公正取引委員に陳情を重ね、ついには昨年12月27日に首相官邸にて日印産連の会長も出席され転嫁円滑化施策が発表されました。これは安永研二副理事長を中心に各理事の努力の賜物です。

しかし長引く不況とデフレによって価格値上げという概念が薄くなり、上げにくくなっているように思われます。そして人手不足で十分な給与を

提示できねば社員は集まりません。また、印刷機をはじめ保有設備は30年、40年と年を重ねロータリ化しています。さらに新しい社会的要請としてカーボンニュートラルなども進めて行かねばなりません。課題山積みの上に原料値上げは対応を誤ると企業の存亡にもかかわります。

フィルムは5次、インキは3次にわたる値上げです。今回の3次・5次値上げは、135円を超えた円安による影響が大だと思います。需要家の方々も、一般消費者に対し値上げをするのは大変ですが、私共も企業存続がかかっていますので我慢できません。人手不足の今、社員の労働条件も考慮し、品質、そして安全衛生も維持、向上させていくためにもお客様に十分ご説明いただきたいと思います。現在の特別な外的要因が解消すれば、その分の価格を修正することもあるでしょう。特に円安は、今後さらに進み、ウクライナの戦争の行

方によってはさらに影響を受けることもあります。

最大手2社とも、原料値上げを早期に受け入れ、営業赤字という異常事態です。電材やDX等、好調な事業を多く抱える中で軟包材のみ赤字とはいきません。着実に値上げを打ち出し、受け入れていただけない場合はお断りする営業方針を打ち出されておられることを私は確信しています。

皆さん、やせ我慢はやめて自社の存続を賭けるべしと申し上げます。今回のような異常事態においては各社の見識が問われています。人手不足の問題についても、外国人技能研修生の受け入れも厳格なルールに基づき、劣悪な労働環境下で健康を害したり、人権無視などなきよう、事務処理を中心に管理強化を図っています。私共組合員は業界が生き残れるよう知恵を出し合い、皆さんの意見を集めて前進して参りたいと存じますので、ご協力をお願いする次第です」

令和3年度事業報告書



議長役に石井純副理事長（関東プラスチック印刷協組、㈱多漣堂）が指名され、議事進行が行われた。

第1号議案「令和3年度（2021年5月～22年3月）事業報告書および決算関係書類承認の件」では、まず、安永研二副理事長が、令和3年度事業報告として、組合および組合員をめぐる経済・経営状況について次のように報告した。

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年であり、令和2年に続き経済活動は停滞し、緊急事態宣言による事業活動の自粛や入国制限によるインバウンド需要の消失など、悪影響を受けた飲食業、宿泊業および各種のサービス

業はもとより、様々な事業者が広範な影響を受け、また中小企業経営者にとっても、在宅勤務や時差通勤等の働き方への柔軟な対応など、従前にも増して、その経営の多様化が求められた。

そして世界的な原油高の影響により印刷の主要資材であるインキ・溶剤をはじめとし、フィルム他石油化学製品などが幾度となく大幅に値上がりし、さらに秋口から年末にかけては軟包装グラビア用インキおよびラミネート接着剤の主溶剤である酢酸エチルの供給不足が起き、稼働を止めなくてはならない状況にまで追い込まれる事態も発生した。

このような経済状況が中小企業にも深刻な影響を及ぼす中、昨年12月27日付で内閣府より発信された「パートナーシップによる価値創造のための転嫁円滑化施策パッケージ」により、各省庁と政府一体となった中小企業の価格転嫁をメインとした取引改善を行う活動を全国グラビア協同組合連合会としても実施することとなり、適正価格改定（値上）に向けての活動強化を行ってきた。

しかしながら、大手流通・小売事業者の頑強な抵抗に遭い、主要取引先である食品メーカーの値上げもままならず、いまだ道半ばという状況にある。

令和3年3月の月例経済報告では、「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直していくことが期待される」とあったが、感染状況がその後も引き続き内外経済に多大な影響を与えている。

印刷産業では比較的安定しているといわれる軟包装グラビアにおいても、海洋プラスチックごみ問題から派生した、プラスチックは「悪」とのネ

ガティブイメージが多くメディアから発信され、間違った認識が一般社会に広まっており、それ故、社会に不可欠な軟包材の供給責任を負う業界としては、来期に向けこうした誤解を解いていきたい。

こうした状況に鑑み、全国グラビア協同組合連合会においては、SDGs（持続的な開発目標）の17の目標に向け、「環境・品質・コスト」の調和と「安全・安心」を目指し、原価意識の確立と適正品質への対応を急がなければ、中小グラビア印刷企業の生きる道はないとの認識を強めている。

2020年7月に「外国人技能実習制度」の評価試験実施機関の認定通知を受けたが、コロナ禍にあっては出張試験のみとしたが、関係者のご協力により、これまで計6回実施することができた。

なお、全国グラビア協同組合連合会の運営にあたり、組合員各位にはこの1年を通じて、ご支援を賜り、深く感謝申し上げる次第です。

引き続き、**袖山高明専務理事**より令和3年度決算関係書類に基づく報告があり、**小室敏明監事**（関東プラスチック印刷協組：(有)墨田ポリ印刷所）、**橋本章監事**（関東グラビア協組：橋本セロファン印刷株）とも欠席のため、**袖山専務理事**が両氏による監査報告書を代読し、承認された。

令和4年度事業計画



次に、**第2号議案「令和4年度（2022年5月～23年4月）事業計画、収支予算並びに経費の賦課および徴収方法決定の件」**では、**竹下晋司副理事長**が、次のような**2022年度事業方針**を提案した。

令和4年度の日本経済は、昨年に引き続き、イベント関連の中止に加え、旅行、外食、教育などとインバウンド需要の減少により、社会生活、事業活動に大きな支障が生じている。また、ロシア

のウクライナ侵攻に伴い円安・原油高に一層の拍車をかける事態となっている。

企業においても、テレワーク、在宅勤務、時短等による感染拡大防止に努めているが、生産現場である大多数の工場では、5回にわたるフィルム値上げ、溶剤の供給不安等々で資材の安定調達に支障が出だし一部操業停止の恐れも続いている。こうしたリスクに対する軽減策をとりつつ、需要回復も見据えてサプライチェーンの維持を図っているが、依然として予断を許さない状況は続き、収束の兆しは見えない。

当業界でも、昨年来より「パートナーシップによる価値創造のための転嫁円滑化に関する要請」等の説明を、今年2月には「価格転嫁状況」についての緊急アンケートを2度に渡り全国グラビア協同組合連合会組合員に発し、状況把握を行い、機関紙『GP JAPAN』4月号に結果を掲載した。今後もアンケートを実施し、前回との差異と今後の事業活動についての指針をまとめ組合員に発信する予定である。

こうした状況下において、今年度も企業存続を賭けた厳しい経営環境が予想され、政府による中小企業対策、雇用対策、エネルギー対策を含む持続性ある経済対策の取り組み、有給休暇の取得義務化をはじめとする働き方改革やレジ袋無料配布禁止に加え、ワンウェイプラスチックの事業提供者が取り組むべき判断基準も策定される等、様々な課題が山積している。

なにより身近な人々から周知、理解をいただくよう働きかけ、個々の企業が有している経営資源を十分に活かし、環境変化に対応できる体質を作り上げることが重要であるとともに、ごみ問題から発生したプラスチックは「悪」問題などの、自助努力だけでは解決しがたい課題については、高品質低価格、不条理な返品等を取り上げ、業界、組合が団結し、経済産業省、環境省、中小企業庁

など行政に積極的に働きかけ、連携組織機能を最大限に活用し、活路を切り拓くことを進める。

全国グラビア協同組合連合会では（一社）日本印刷産業連合会が認定する「グラビア印刷（軟包装）グリーン基準（GP 認定）」の新規取得が、昨年度は進まなかった。その反省を踏まえ、様々な機会を活用しながらSDGsの観点からもGP取得の重要性を訴え、現在の66事業所（全国）から、今期中には70事業所が達成できるようGP制度のさらなる啓蒙を図っていく。併せて、GPマーク製品表示についても、より一層の理解が得られるようGP認定事業所に対してPR活動を推進し、昨年度創設されたGP環境大賞『パッケージ印刷部門』とGPマーク普及大賞『グラビア・シール・スクリーン印刷部門』において、継続的に組合員およびその得意先が受賞できるようGP制度の普及活動を展開していく。

全国グラビア協同組合連合会としては、組合員個々が業界の範となり、社会全体からの信頼される業界の構築へ務められるよう最大限のサポートを行うべく、下記の事業活動を実施し、組合員並びに賛助会員各位のご協力をお願いしたい。

これに基づく、**令和4年度事業活動骨子**としては次のようなものが挙げられる。

- (1)省エネ、省資源とプラスチック資源循環による地球環境保全への対応
- (2)全国グラビア協同組合連合会を通して「日印産連」と連携を取り、行政関連経済支援策・下請適正取引・優越的地位の濫用等に迅速な対応と関連行政官庁の連携強化
- (3)SDGsとカーボンニュートラル（CN）社会への貢献
 - ①「グラビア印刷（軟包装）グリーン基準」に基づくGP制度の啓蒙と認定取得の奨励・周知活動
 - ②「規制と自主的取組のベストミックス」による

VOC 排出削減へ向けての支援

- ③地球温暖化防止のためのCO₂排出量削減への取組
- ④省エネ法への対応の取組
- ⑤環境関連条例等への対応策の検討と規制緩和の推進
- ⑥海洋プラスチックごみ問題について関連メーカーとの連携による資源循環の情報収集
- (4)会員・賛助会員の増強
 - 「グラビア印刷（軟包装）グリーン基準」に基づくGP制度の啓蒙と認定取得への近道として組合加入促進を図る
- (5)（一社）日本印刷産業連合会への積極的な参加と、関連業界団体との連携強化
- (6)青年部の育成と拡大
- (7)機関誌『GP JAPAN』の内容充実と広告獲得、拡販
- (8)（一社）日本印刷産業連合会の連携とホームページ運用による広報の取組
- (9)外国人技能実習生制度認定団体として、技能実習評価試験の実施体制の更なる拡充
- (10)消防法、有機溶剤中毒予防規則、改正大気汚染防止法、改正食品用器具及び容器包装の法規制、働き方改革、民法改正等の周知と遵守の推進
- (11)新型コロナウイルス感染症の予防対策の周知と行動の徹底

令和4年度事業計画としては次のようなものを予定している。

- (1)教育および情報提供に関する事業
 - 会員傘下組合員等に対し経営管理・環境対応および生産技術の向上を図るため、次の研修会（講習会、講演会）並びに情報提供をすることにより実施する。なお、この事業は教育情報事業賦課金収入により運営する。
 - ①省エネ・節電取り組みにおける経営支援および諸環境法規（法令）の対応支援活動

②労働安全衛生と消防法の法令遵守の啓蒙と完全実施の推進

危険物乙種第4類および有機溶剤取扱主任免許取得の奨励と啓蒙運動の展開

③下請法および優越的地位の濫用防止の啓蒙と周知への支援活動

④SDGs とカーボンニュートラル社会への貢献

- ・グリーンプリンティング認定制度の普及
- ・グラビア印刷製品 GP マーク表示使用の促進
- ・VOC 排出削減の維持と促進
- ・地球温暖化防止のための CO₂ 排出量削減への取組

⑤改正食品用器具及び容器包装の法規制、働き方改革等の法改正の周知活動

⑥新型コロナウイルス感染症予防と事業継続対策の周知活動

⑦各単組および青年部による見学会・講習会・セミナー・分科会発表等の開催

⑧情報提供

全国グラビア協同組合連合会の機関誌『GP JAPAN』の発行と同連合会ホームページのリニューアルにより組合員・非組合員への情報提供。

引き続き、袖山専務理事より令和4年度収支予算（案）が紹介され、無事承認された。

村田英雄前専務理事、お疲れ様でした

第3号議案「令和4年度（2022年5月～23年4月）における、借入金残高の最高限度額の決定の件」が承認され、第4号議案「理事補充選挙の件」では、村田英雄専務理事の正式退任に伴い、後任に**袖山高明氏**が議長役の石井 純副理事長により指名され、受諾・承認された。

最後に、リハビリに励む**村田英雄前専務理事**から、「皆様、こんにちは。少しお話いたします。（任期途中の退任となり）ご迷惑を掛けて申し訳ございませんでした。皆様はコロナに負けず、私も病気に負けず（リハビリに）がんばります。ありがとうございました」との挨拶があり、これまでの労と、今後のリハビリへの励ましに向けて拍手に包まれながら、総会は無事終了した。



組合員・単組の近況

北陸グラビア協同組合

第61回通常総会を開催

報告者：賀谷真尚（賀谷ゼロファン(株)）

北陸グラビア協同組合（賀谷真尚理事長）は、2022年5月27日（金）、樹林厨房六角堂において第61回通常総会を開催しました。

2年ぶりのリアル総会を開き、理事会、総会共に問題なく終わりました。今期は、一昨年に1社の退会がありましたが、昨年は㈱興和化学工業所（福井県）の入会があり、組合員は元の9社に戻りました。ただ、2社ほど高齢者（83歳と86歳）で後継者もなく、仕事を辞めるかも知れない所があり、組合が収縮することを心配をしています。

久しぶりの懇親会では賛助会員も含め17人で宴会だけは盛り上がりました。今期は後継者を交えて交歓し、若返りもテーマです。

第61期（令和4年度）事業計画は次の通りです。

(1)VOCの削減の取り組みと削減を図る

(2)GP制度の資格認定の促進を図る

(3)品質の向上と衛生および作業環境の向上を図る

(4)環境対応フィルム、資材の知識を身に付けるための勉強会を行う

(5)組合員の増強を図る

また、具体的事業計画は次の通りです。

(1)定例会を2カ月に1回行い、後継者を交えた情報交換と懇親会を行う

(2)事業計画の勉強会を行う

(3)福井県、富山県の組合員を増やすための勧誘活動を行う

Information

日印産連、SDGs導入サポートをスタート

日本印刷産業連合会（日印産連）では、昨年度よりSDGs推進プロジェクトを立上げ、10団体所属会員企業のSDGsに対する理解の促進とその導入を支援するための準備を進めてきた。2022年6月より、第1フェーズとして、次の1～3の施策を順次実施し、会員企業のSDGsへの理解促進とその導入を積極的に支援していく。

1. SDGs ポータルサイトの開設
2. e-learning 機能付きアンケート調査の

実施

3. SDGs 講習会の開催

日印産連では、アンケート調査で寄せられる意見等を参考に、これから計画的に会員企業へのサポートを継続していく計画。また、来年度以後は、第2フェーズとしてSDGsを軸とした社会的課題解決に向けたビジネス（ソーシャル・ビジネス）に関わる研究の他、「SDGsワード」の創設に向けた活動を計画している。

組合員・単組の近況

北海道グラビア印刷協同組合

第52回定時総会を開催

2022年5月27日(金)午後5時30分より、札幌グランドホテル「涼風」において北海道グラビア印刷協同組合（若狭博徳理事長、㈱北海サンコー）定時総会が開催されました。

昨年の改選による新体制での初総会となりました。昨年同様のコロナ禍ではありますが感染対策を徹底することにより、コロナ感染以前と同様の開催となりました。

総司会および事務局を兼務する大野寿之副理事長（極東高分子㈱）が開催を宣し、若狭理事長が挨拶をしました。総組合員12名中9名の出席（委任状3名）のもと議案審議に入りました。

第1号議案 2021年度事業報告、決算報告及び監査報告の件

昨年度もコロナ禍にありましたが、定例理事会の開催とポリオレフィン工業組合との合同企画で、

SDGsをテーマとした勉強会を開催いたしました。事務局より決算報告、寺師幸嗣監事（㈱サンパックス）より監査報告が行われ、満場一致で承認されました。

第2号議案 2022年度事業計画、収支予算の件【基本方針】

全国グラビア協同組合連合会の指導の下、関連業界団体と連携を密にして環境関連の諸問題に取り組んで参ります。

【事業計画】

1. 環境対策の推進

①地球温暖化のためのCO₂排出量削減への取



総会の様子

り組み

- ②節電対策の研究と推進
- ③作業場の環境改善の啓蒙と推進
- ④海洋プラスチックごみ問題への取り組み

2. 総会

2022年5月27日(金) 定時総会開催

3. 勉強会・研修会

以上の件を審議し、満場一致で承認されました。

第3号議案 監事改選の件

監事改選により小原 良理事（北海紙工業㈱）が選任され承認されました。なお、寺師幸嗣前監事は理事留任となりました。

その他

予定されておりました審議事項はここまででしたが、追加審議事項がありました。

組合員増強として、現在正会員にてご参加いただいている大東セロファン㈱の子会社である大東

印刷㈱の渡邊 武社長からのお申し出により大東セロファン札幌の工藤 誠所長にご参加いただくことになり、承認をいただきました。

今後の組合活動がさらに活発なものになることを期待しております。

引き続き、会場を同ホテル17階の「青雲」に移し、賛助会員と共に懇親会を開催しました。若狹理事長の挨拶と乾杯の発声により酒宴となりました。

コロナ対策のため着席、お酌無しという規制はありましたが、久しぶりの宴ということもあり、和やかに時は過ぎゆきました。

宴の途中で同日の朝より小樽カントリー新コースにて親睦ゴルフコンペを執り行い、その表彰式を行いました。総勢12名の参加をいただきました。

遠方からのご参加いただきました賛助会員である東京計器㈱の川上 温営業部長にご挨拶をいただいた後、ゴルフコンペで優勝をされました大東印刷の渡邊 武社長による中締めのご挨拶と一丁締めにしてお開きとなりました。



懇親会の様子



親睦ゴルフコンペに参加された皆さん

組合員・単組の近況

関東プラスチック印刷協同組合

第59回通常総会を開催

関東プラスチック印刷協同組合（石井 純理事長、(株)多連堂）は、2022年5月27日(金)午後4時より、上野精養軒「竹の間」において第59回通常総会を開催しました。当日は、本人出席7名、委任状出席5名の計12名の出席のもと、第1号議案から第6号議案まで審議が行われました。

令和4年度（2022年4月1日～23年3月31日）の事業方針は次の通りです。

【事業方針】

令和3年度の我が国の経済は未だに収束しないコロナ禍に加えロシア軍によるウクライナへの侵攻、原油価格の高騰、原材料や食品原料などの高騰や不安定な輸入による物の不足やその影響による製品の値上げなどあらゆる分野に影響を及ぼした、3月初旬から4月にかけて二十数年ぶりの歴史的安値水準と言われる円安の流れが急加速しており、4月28日は実に20年ぶりで1\$=130円台を突破した。日本経済だけではなく消費者やその家計にも影響を及ぼし今後はどこまで円安が進行するのか本年度は後半になり経済にさらなる不安を残す1年となった。またその一方では経済効果を期待し、世界的にコロナに対する感染意識を抑えた行動が報じられる昨今、各国感染対策に違いはあるものの日本もインバウンドツーリズムを受け入れる態勢をコロナ前に戻す取り組みを進め経済効果を求めている。

当業界を取り巻く環境も依然として厳しく原油価格の高騰による包装資材用のフィルムや印刷用インキと溶剤、ラミネート接着剤と溶剤などの短期間での度重なる値上げによる得意先への価格転嫁も儘ならず当業界は苦労しているのではないのでしょうか。

当組合の活動としては、改正容器リサイクル法の推進、グリーンプリンティング認定取得、SDGsへの意識付け、新型コロナウイルス感染予防対策など組合員への啓蒙と推進活動を図っていく。

昨年同様コスト削減と適正料金確保の推進や価格意識の徹底、コスト削減などの組合員各々の自助努力が必要とされ容易な問題ではないが引き続き今年度も意識改革し行動指針の計画を推進する。また、他の事業計画は関係組織などと連携し成果、効果、結果が見える施策の実行啓蒙活動を図っていく。

毎年恒例となる勉強会や情報交換会、懇親会などより一層身のある会として開催し、多くの組合員の事業参加を目標とする当組合員の協力と団結、また組合員各々の事業に寄与することを願う。

本年度も会員の皆様には前年度以上の組合事業に対するご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和4年度の推進事項は次の通り。

【推進事項】

1. 環境保全対策の推進

- ① VOC 排出量の削減と削減目標管理の推進
- ② 改正容器リサイクル法への対応
- ③ ノントルエン化の推進
- ④ SDGs への意識付け
- ⑤ PRTR 法への対応

2. コスト削減、適正料金確保の推進

- ① 原価意識の徹底
- ② 価格転嫁の啓蒙

3. 働き方改革関連法への取り組み

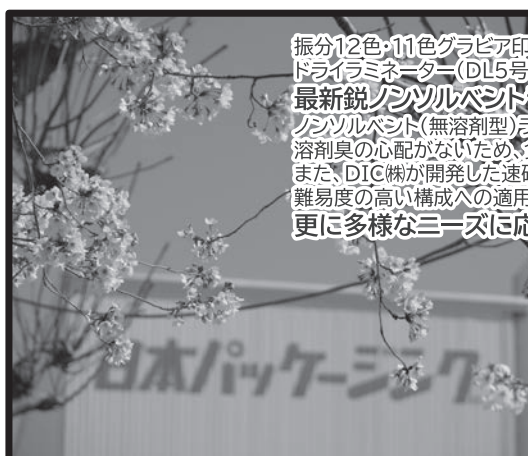
4. グリーンプリンティング工場認定の啓蒙

5. 青年部活動の充実と組合組織の拡大

6. 新型コロナウイルス感染予防対策の啓蒙



振分12色・11色グラビア印刷機(印刷7号機・印刷8号機)、
ドライミネーター(DL5号機)に引き続き、
最新鋭ノソルベントラミネーター(NS6号機)を増設稼働致しました。
ノソルベント(無溶剤型)ラミネーターは、高い経済性と環境適性に優れており、
溶剤臭の心配がないため、食品包装などに適しています。
また、DIC株が開発した速硬化型無溶剤接着剤“DUALAM™”に対応し、
難易度の高い構成への適用も視野に入れた仕様としています。
更に多様なニーズに応えられる「日本一の協力会社」を目指してまいります。



ISO9001:2015 認証取得
グリーンプリンティング認定工場
軟包装衛生協議会認定工場 正会員

■グラビア印刷 ■ドライ・ノソルベントラミネート



日本パッケージング株式会社

本社・工場 〒340-0121 埼玉県幸手市上吉羽2100-30
TEL:0480-48-2620 <http://www.nippake.com/>

組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合青年部

第23回通常総会を開催

報告者：原 卓実（三洋グラビア株）

関東グラビア協同組合青年部は、2022年6月3日(金)午後3時から静岡県・心湯の宿SAZANAにおいて第23回通常総会を開催しました。

この度、第23回関東グラビア協同組合青年部の通常総会において令和4年度新幹事選任(案)を皆様にご承認いただき、部長を拝命いたしました。また経験値が低く、覚束ない私ではございますが、新役員および会員の皆様と共に当業界が魅力的で在り続けられるよう尽力してまいります。何卒、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2022年6月3日(金)に開催された通常総会は、阿部部長による議案審議のもと、第1号議案「令和3年度事業報告及び収支報告・令和3年度監査報告」および第2号議案「令和4年度新幹事選任」が全会一致で可決されました。

役員任期が1期2年のため、本総会で役員改正が次の通り実施されました。

【新役員（敬称略）】

部長：三洋グラビア株 原 卓実

副部長：株精工 大野 亮

副部長：東京加工紙株 滝下 慧

会計：東洋インキ株 清永朋哲

幹事：大伸化学株 吉田 巧

幹事：信和産業株 芝田政道

幹事：株千代田グラビヤ 日高 一

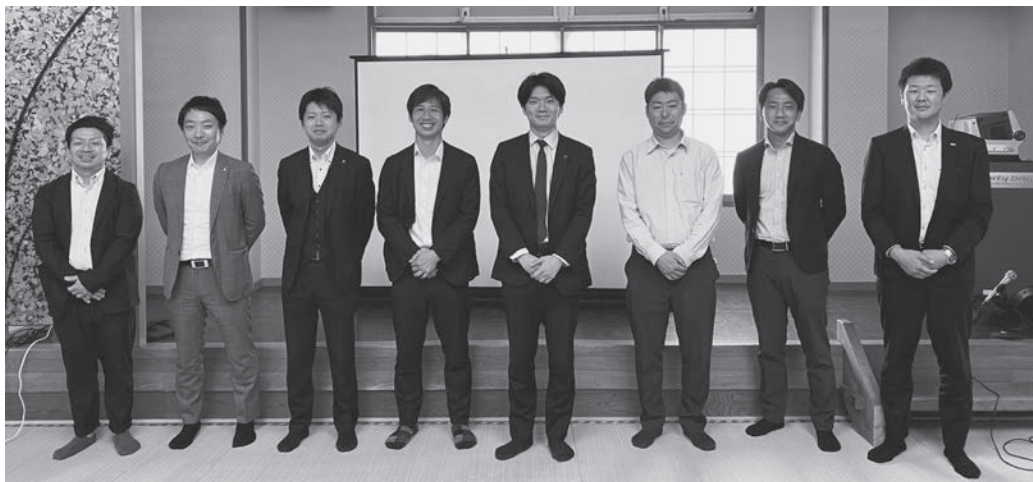
幹事：サカタインクス株 石井圭太

相談役：八潮化学株 小林直人

監査：信和産業株 村野 剛

監査：日本パッケージング株 諸石武士

続けて、新役員による議案審議のもと、第3号議案「令和4年度事業計画、収支予算案」が全会



新役員の皆さん

一致で可決されました。

通常総会後には、各分科会チームより①管理会計の基礎講義、②脱墨機見学会の報告、③会員企業様から収集したアンケート結果の紹介および分析、④青年部ホームページ開設の紹介等をしていただきました。

青年部ホームページでは活動報告を公開しておりますので、会員企業様におかれましては閲覧いただけますと幸いです。

さらには、全国グラビア協同組合連合会の田口会長、袖山専務理事をご寄稿くださった叱咤激励の文書を諸石監査役からご紹介賜り、私たちの背中を押していただきました。

懇親会では、新たにご入会いただいた皆様の自己紹介で大いに盛り上がり、当組合の結束感がさらに強まりました。

翌日は18名が参加するゴルフコンペが稲取ゴルフクラブで開催されました。山岳コースで溜まった足腰の疲れが一瞬にして忘却の彼方へ飛んでしまう風光明媚な光景を目に焼き付けながら、気持ちよくプレーを楽しむことができました。

末筆ではございますが、新役員一同で業界の発展に少しでも貢献できるよう鋭意努力してまいります。何卒、皆様のお力添えをいただきますよう重ねてお願い申し上げます。



通常総会出席者



ゴルフコンペに参加した皆さん

組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合青年部

第24期通常総会開催報告

関西グラビア協同組合青年部（田中規貴部長、淀川加工印刷㈱）は、2022年6月17日（金）午後6時からANAクラウンプラザホテル大阪「平安北の間」（大阪府大阪市北区堂島浜1-3-1）において24名参加のもと、第24期通常総会を開催しました。



田中青年部部長

総会は、事務局の司会によって進行し、開催に際し田中青年部部長が、多数の会員に出席いただけたことに謝意を示すとともに、「新型コロナウイルス感染症が騒がれ始めて2年半が経とうとしています。その間、会員の皆様には書面議決権行使へご協力いただき、青年部役員8名のみで総会を開催しました。先日、久しぶりに東京出張で展示会に行ってきましたが、行き帰りの飛行機は満席、会場への駅のホームも多くの方が行き交っていて、経済活動が再開するという雰囲気を感じました。この2年半、新型コロナウイルスだけでなく、ロシアのウクライナへの軍事侵攻など暗い話題が多く、心の部分でも生き辛

い環境の中、このグラビア業界で皆様と情報交換させていただくと新規はお断り、原材料の手配は営業総出でやっていますなど、今までにない異常事態が続いていますが、世界ではSDGsが叫ばれていますから、これからは環境に配慮した仕事であることも考えていかなければなりません。この関西グラビア協同組合では竹下理事長をはじめとして皆で色々知恵を出し合って良い業界団体になっていくことができればと思っています。私は青年部に27歳で加入をして気付けば23年、今年で50歳になります。青年部では若い方がどんどん加入して下さっていて平均年齢も少しずつ若返ってきており心強く思っています。青年部と親組合で連携しながら若い力でこの業界がより良い方向に進むよう皆様のご協力をどうぞ宜しくお願い致し



総会会場の様子

ます」と開会の挨拶を述べ、続いて司会より本日の通常総会は定足数を満たした旨が告げられ、田中青年部部長が議長に選任され議案審議に入り、第1号議案から第3号議案が賛成多数で可決され、すべての審議を終了しました。

【決議事項】

第1号議案 令和3年度 事業報告及び収支決算に関する件

第2号議案 令和4年度 事業計画案及び収支予算案の承認の件

第3号議案 任期満了に伴う役員改選の件



就任の挨拶をする
木田青年部部長

総会後は3年ぶりとなる委員会を開催し、教育研修委員会と組織交流委員会に分かれ期中の青年部行事（交流会、講演会、年末情報交換会、グラビア技術研修会）について活発な意見交換を行いました。その後、引き

続き同ホテルの別会場にて懇親会を開催しました。事務局の司会進行によりスタートし、総会において新たに部長に選任された木田青年部部長より「新型コロナウイルスによって行事が思うように開催できなかった2年半でしたが、今年は順調にい

けば再開できるのではないかと考えています。私の青年部部長就任は二度目となります。私も今年50歳ということでそろそろ後進に道を譲りたいと思っていますが、今期1年を皆様の力をお借りして頑張っていきたいと思っていますのでご協力お願い致します」と就任挨拶がありました。

乾杯の音頭では来賓の竹下理事長から一言、今年11月に東京ビッグサイトで開催されるIGAS2022に全国グラビア協同組合連合会が出展すること。そして全国グラビアから関東グラビア協同組合青年部と共に関西グラビア協同組合青年部にも協力要請があり、関東グラビアからも是非関西グラビアと連携したいとの提案があったので、その要請に応じて欲しいと皆に伝え、乾杯の発声をし、賑やかに宴会が開催され、名刺交換や情報交換、歓談の輪が繰り広げられました。途中、新しく青年



森脇青年部副部長の
中締めの挨拶

部に加入した2名より自己紹介いただき、続いて青年部担当者交代により新しく担当者となった4名より一言ずつ挨拶をいただき、最後は森脇青年部副部長の中締めの挨拶と一本締めで午後8時30分すべてを終了しました。



乾杯の音頭を務めた竹下理事長

Snapshot



Snapshot



※写真撮影時は一時的にマスクを外していただきました

組合員・単組の近況

九州グラビア協同組合

第53回通常総会を開催

九州グラビア協同組合（中村政晃理事長、㈱三裕商会）は、2022年5月31日（火）午後4時から、八仙閣本店会議室において、第53回通常総会を開催し、第1号議案から第6号議案まで審議が行われました。

2022年度の九州グラビア協同組合の事業計画と基本方針は次の通りです。

【事業計画】

「ウィズコロナ」「コロナウイルスとの共生」とは、いったいどういう生活・社会なのでしょう？ ウイルスから身を守り、同時に生活を支える経済活動を行うためにはどうすればよいのでしょうか？ 過去のような大量生産・大量消費の資本主義的方法論では対処できないのではないのでしょうか。ワクチンや特效薬という対策とは別に、個々人が深く考え判断し行動をしないと解決できないと思います。

原材料やエネルギー価格の上昇による影響が幅広い業種に広がる中、ロシアのウクライナ侵攻に伴う船舶運賃・資材コスト・原油高騰の負担増の懸念もあるなか、1ドル＝130円まで進んだ円安によって更なる高騰が考えられます。価格転嫁が容易であれば何の問題もないのですが。マーケット（市場）からの抵抗が非常に強く、反抗すれば売場から除外される恐怖供給過多＞需要減少の現象です。

4月25日に「ららぽーと福岡220店舗」、4月28日に“ジ・アウトレット北九州170店舗”が相次いで開業。（ストアジャパン社の調査によると、2022年2月の大店立地法の出店届出）全国で100店舗近くのマーケット（売場）が増えます。いずれ間違いなく訪れる、人手不足（現状ですが）・

食料不足・インフレーション。予想外であれば良いのですが、備えておきましょう。

【基本方針】

- (1) 環境セミナーの開催
- (2) 環境関連諸法規集の改定
- (3) 他業界、行政、関連機関との連携強化
- (4) 中小企業経営革新支援法と補助金制度の有効活用促進
- (5) グリーンプリンティング認定制度の取得計画
- (6) 会員・賛助会員の増強
- (7) 青年部の育成と拡大
- (8) 外国人実習生制度認定を受け、技能評価試験の実施体制の確立と実施
- (9) 新型コロナウイルス感染症予防と事業継続対策の周知活動
- (10) 西日本高速道路㈱の大口・多頻度割引事業
- (11) 九州包装人賀詞交換会

軟包装部会の協議に従って事業を行います。

(12) 資金貸付業

定款の定めるところにより資金貸付業を営みます。

(13) 福利厚生事業

先例に基づいた＜吉・凶・福＞の慶弔を行います。

以上、組合員の皆様方のご協力によりまして上記基本方針および基本的活動課題を推進していきたく存じます。

活版印刷文化の保存を目指す声明 署名協力をお願い

ドイツ・マインツにある「グーテンベルク博物館」より、失われつつある活版印刷文化の保存を目指し賛同者を募る声明「マインツ・インパルス」への署名協力の依頼が届いています。

この声明は2020年、グーテンベルク博物館が中心となり発表されました。日本の印刷業界としても、活版印刷文化の保存に資するためにこの声明に賛同し、具体的には可動式活字による活版印刷を「ユネスコ無形文化遺産」に登録すること等を目指しています。

ぜひ、「マインツ・インパルス」署名ページ（日本語、印刷博物館 Web サイト内）にて内容を確認、賛同の上、署名をお願いします。

「マインツ・インパルス」署名ページ URL

<https://www.printing-museum.org/mainzerimpuls/>

署名期間：2022年7月24日（日）まで ※所要時間：3分程度



「マインツ・インパルス」声明文（以下、一部抜粋）

デジタルメディア革命により、私たちは今、印刷の発明によってグーテンベルクの同時代人が経験したような激動の時代を経験しています。デジタル化は、あらゆる分野で私たちの日常生活を急速に変化させています。文書の作成、複製、拡散といったグーテンベルクによる手工業の技術も、かなりの部分がデジタル化されており、出版の多くの段階が自動化されてコンピュータが担っています。その結果として、可動式活版印刷の伝統的な手工業の技術—デジタルによる第二次メディア革命を可能にした技術—が、消滅の危機に瀕しています。

伝統的な手工業・印刷技術の保存

印刷技術の世界的な博物館でマインツにあるグーテンベルク博物館と、ヨーロッパの活版印刷発祥の地であるグーテンベルクの街マインツは、これらの重要な技術が間もなく失われることに注意を喚起するために、この訴えを行います。

私たちは、父型彫刻から活字の鋳造、鉛の植字、プレス印刷に至るまで、活版印刷の歴史的技術を包括的に保護することを求めます。

必要とされる施策（具体的な目標）

- ・可動式活字による活版印刷を「ユネスコ無形文化遺産」及びユネスコの「緊急に保護する必要がある無形文化遺産」に登録すること。
- ・「芸術的な印刷工程」を中心とする「メディア技術としての印刷」のための職業教育機関、及び高等教育機関における職業訓練・継続訓練を量的に拡大すること。
- ・学校や専門学校の教育カリキュラムに「印刷・メディア史」を定着させること。等々

組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合 理事会報告

軟包装材は社会インフラを構成する必須材料 エッセンシャル・カンパニーとしての誇りを持とう！

関東グラビア協同組合は、2022年5月19日(木)、第52回通常総会終了後の午後3時40分より、組合事務所とWeb参加の理事とをオンラインで結び、理事会を開催した。当日は、田口 薫理事長（大日本パッケージ㈱）、安永研二副理事長（東包印刷㈱）、山下雅稔副理事長（㈱巧芸社）、千田 敦理事（㈱東京ポリエチレン印刷社）、袖山高明専務理事、村田英雄顧問の6名が組合事務所から、吉原宗彦副理事長（東京加工紙㈱）、川田雄治理事（トーヨー加工㈱）、橋本 章理事（橋本セロファン印刷㈱）、村野 剛理事（信和産業㈱）、諸石武士理事（日本パッケージング㈱）、柴田里香理事（千代田オーク法律事務所）、佐藤裕芳監事（㈱千代田グラビヤ）、岸本一郎監事（㈱カナオカ）の8名がWeb経由で参加し、議事が進行した。

1. 印刷功労賞・印刷振興賞の推薦候補について

今年9月14日（水）に東京・ホテルニューオータニで開催が予定されている、（一社）日本印刷産業連合会（JFPI）主催の「2022年9月印刷の月」記念式典にて、JFPIにより表彰される、「印刷功労賞」および「印刷振興賞」の推薦候補者について、事務局にて過去の受賞者を参考に、候補者を絞り込み、最終的に、全国グラビア協同組合連合会の会長を兼務する田口 薫理事長（大日本パッケージ㈱）に一任し、推薦することを了承した。

2. 2022年度 JFPI 派遣委員について

年度が切り替わり、JFPIの委員会の下部組織である部会・WG（ワーキンググループ）が統廃合されスリムになり、これまでのように全グラから延べ二十名を超える方々に出席を強いる負担は軽減された。また、今年は、IGAS(International Graphic Arts Show) 2022が11月24日(木)～28日(月)まで東京ビッグサイトで開催されるため、広報部会の下に、「IGAS2022」展示企画WGが新設される。

関東グラビア協組関連では、田口 薫会長が「ス

テアリング・コミッティ」「日印産連表彰選考委員会」、袖山高明専務理事が「専務理事連絡会」「『Change Together』提言実行プロジェクト」「SDGs 推進プロジェクト」「デジタル化推進部会」、諸石武士理事（日本パッケージング㈱）が「コンプライアンス推進部会（旧・法令制度部会）」、諸石理事の奥様（大日本パッケージ㈱）が「ダイバーシティ推進部会（旧・女性活躍推進部会）」、大日本パッケージ㈱の前田琢哉氏が「労働安全衛生部会」、同じく大日本パッケージ㈱の小林敦史氏が「容リ法対応WG」、安永研二副理事長（東包印刷㈱）が「環境マネジメント部会」「環境自主行動計画推進WG」、山下雅稔副理事長（㈱巧芸社）が「グリーンプリンティング推進部会」「GP 周知活動WG」、吉原宗彦副理事長（東京加工紙㈱）が「グリーンプリンティング推進部会」、橋本 章理事（橋本セロファン印刷㈱）が「環境優良工場表彰審査委員会」を担当する。

3. グリーンプリンティング(GP)関連について

山下雅稔副理事より、BS フジの番組『小山薫

堂 東京会議』にて、GP 認定工場が取り上げられ、5月1日に放映、5月8日には再放送されたが、見逃された方は、BS フジ HP の動画ライブラリ (<https://www.bsfuji.tv/vod/library/koyama.html>) にて視聴可能なので、是非、ご覧いただきたいとの勧めがあった。

続いて、「2022年グリーンプリンティング認定制度表彰式／『印刷と私』トークショー」は、10月19日(木) 午後3時半より、DNP 五反田ビル・ホールでの開催が決定した旨の報告があった。

5月16日(月) に共同通信社が小山薫堂 GP PR 大使へインタビューを行った。共同通信社は地方紙に記事を配信しているので、GP についての記事が地方紙にも掲載されることが期待される。

吉原宗彦副理事長より、「TEAM EXPO 2025」共創チャレンジ登録内容について説明があった。5月19日、JFPI の GP 推進部会で決定した事項だが、2025年に開催される大阪・関西万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとしており、(公社) 2025年日本国際博覧会協会は、2020年10月、同テーマを実現し、SDGs の達成に貢献するため、多様な参加者が主体となり、理想とした未来社会を共に創り上げていくことを目指す取り組み「TEAM EXPO 2025」プログラムを立ち上げている。

GP も、この共創チャレンジに参加することを決定した。共創チャレンジ名は「すべての印刷物を“グリーンプリンティング” に!」、チーム名は

「Team GP」。GP が、SDGs の目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標6「安全な水とトイレを世界中に」、目標7「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、目標11「住み続けられるまちづくりを」、目標12「つくる責任 つかう責任」、目標13「気候変動に具体的な対策を」、目標14「海の豊かさを守ろう」、目標15「陸の豊かさを守ろう」と密接に関連し、貢献していることを広く知らしめるのが狙い。GP の PR には絶好の機会を得たことになる。

4. 不条理な取引事例等について

軟包装材＝社会インフラを構成する必須材料、そして、その製造を担う企業はエッセンシャル・カンパニーであることを広く知らしめる必要がある。それには、自分たちが行っている仕事に対して誇りを持てるように事業環境条件を整え、不当ともいえる取引条件を是正していく必要がある。どうしたら分かりやすく情報を発信できるか、どうしたら行政にも理解してもらえるか、出席者で議論した。

5. その他

- ・印刷産業における取引改善等に関する調査事業
- ・活版印刷文化の保存を目指す声明「マインツ・インパルス」への署名のお願い
- ・全国グラビア協同組合連合会の第52回通常総会開催(2022年6月24日)



日本印刷学会 グラビア印刷技術研究会 第8回グラビア基礎講座を開催

(一社) 日本印刷学会 技術委員会 グラビア印刷技術研究会は、2022年6月8日(火) 午後1時30分～4時30分まで、オンラインで「第8回グラビア基礎講座—グラビア印刷、基礎からトラブル対処まで—」を開催し、92名の参加の下、フィルム、印刷機、製版、インキについて4名の講師がそれぞれ講演を行いました。

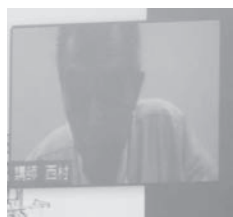
グラビア印刷時のフィルムの取り扱いに関する留意点



講演のトップバッターを務めた**東洋紡織パッケージング開発部の中谷伊志氏**は、フィルムの製膜工程から各種フィルム的一般物性、トラブル事例などについて説明を行いました。

フィルムの製膜工程では逐次二軸延伸を例に、押出・キャストイングから縦・横延伸、巻取、スリット工程について解説。また、二軸延伸PP、二軸延伸PET、二軸延伸NYの一般物性の比較とともにフィルム物性から見た様々な加工トラブルを紹介し、中谷氏からは素材に合った加工条件の調整や用途に応じた素材選びを行うことなどのアドバイスがされました。

グラビア印刷機の基礎



富士機械工業㈱設計部の西村高博氏は広島の本社よりウェブ経由で、印刷機の基本構成や各部の構造、役割について解説しました。

また、基材に張力をかけて搬送するグラビア印刷機の張力管理の重要性についても説明、必要張力の計算法や製品の仕上がり

ピッチとその際の版胴円周長の求め方などを紹介。西村氏からは、高品質の印刷物を得るには高精度で高性能の印刷機であることだけではなく、高精度の版胴、ヤング率と基材幅、基材の厚みが安定した状態の基材、条件に合ったインキが揃うことが必要であるとの説明がありました。

グラビア製版の基礎



東洋 FPP ㈱の松崎徳治氏は製版の作業工程や方式(腐食・彫刻)別の印刷効果、トラブル事例について解説を行いました。

グラビア製版の画像処理工程の中では、クライアントからの原稿を、製版ソフトを使って集版した後、色校の出力を行います。松崎氏からは、オフセットと違ってグラビア印刷には標準色がないので、クライアントごと、基材ごと、インキごと等、様々な印刷物をクライアントに刷ってもらい、その刷り物をプロファイルしてカラーカードを作って調整してプリンター出力をしてお客様のニーズに据えているとの説明がありました。トラブルについては、面ムラや版カブリ、ピンホールなどについて、現象とシリンダーとの要因について一覧にまとめて紹介しました。

グラビアインキの基礎、印刷時のトラブルシューティング



サカタインクス(株)グラビア
パッケージ事業部応用技術部東
京技術部グループの楠本秀樹氏
は、グラビアインキの種類や用
途、求められる性能、印刷時の
トラブルシューティングなどに

ついて解説しました。

インキの顔料構造によって耐熱性や耐薬品性な
どの諸物性が決まるので、顔料選択を間違えると

クレームにつながるとし、楠本氏は社内で行った
マイグレーションの実験を紹介。スナック適性と
ボイル適性のある紅インキをそれぞれ ONY に印
刷し、非印刷面と ONY 無地面を重ね合わせて100℃
の熱水に30分間浸漬したところ、スナックグレー
ドの方はナイロンの内部に成分が浸透して無地面
に紅インキが到達したという結果が得られたとの
ことで、ボイルやレトリート工程がある印刷物はそ
れに合ったグレードのインキを使用することが重
要であると解説しました。



訃報



かねてより病氣療養中であった(株)オリエント総業（愛知県春日井市）の檜山栄一専務取締役が、5月10日に永眠された。享年75。檜山氏は、現取締役会長の原田 等氏がオリエント総業を立ち上げて間もなく加わり、メンテナンス、技術開発に携わってきた。2018年の「印刷の月」記念式典では、(一社)日本印刷産業連合会より印刷振興賞を授与されている。ご冥福をお祈り申し上げます。